

# 秋田市建都400年記念事業 平成15年度事業計画



平成15年3月  
秋田市建都400年記念事業実行委員会

## 目 次

. はじめに	1
. 記念事業の概要および基本理念	2
. 組織・推進体制	3
. ロゴマークとキャッチコピー	4
. 平成15年度事業計画概要	5
1. 実行委員会主催イベント	6
(別紙)秋田市建都400年記念事業関連予定プレ事業・イベント	7
2. 「イベントカレンダー」制作	8
3. 「漫画で綴る秋田市の歴史制作」	9
4. 広報プロモーション展開	10

## ．はじめに

秋田市は、大和朝廷の時代から出羽国の要衝として栄えてきたが、慶長7年(1602)に、初代秋田藩主である佐竹義宣公が常陸国から国替えとなり、2年後の慶長9年(1604)に現在の千秋公園に久保田城を築くとともに、周辺に城下町の基礎を建設したことから、現在のまちづくりの原型ができたとされている。

明治22年(1889)の市制施行後は、北日本における文化・経済の拠点都市として、また、人口約31万人を擁する中核市として着実な発展を遂げており、その間に培われた地域独自の芸術文化は、先人から脈々と受け継がれ、時代の移り変わりとともに変化・発展しながら、市民の心に豊穡と潤いを与えるとともに、文化の薫り高い郷土を育んできた。

来る平成16年には、義宣公が久保田城に入城してから400年を数えることから、この歴史的節目を記念し、「秋田市建都400年記念事業」を実施することとしたところである。

本記念事業は、「歴史を想い、今日を祝い、未来へ遺す」を基本理念とし、多くの市民参加により、民間と行政が一体となって実施するものであり、実行委員会の主催事業を中心に、民間主催事業への支援・共催や秋田市事業との連携をはかり、多様な事業展開を行うとともに、県都・秋田市を全国へ広く・力強くアピールするものである。

そして、一連の記念事業を先人が長い歳月を経て育んできた歴史を回顧するとともに、新たな文化や芸術を創造し、次の時代を切り拓く活力あるまちづくりの原動力とするものとする。

## ・記念事業の概要および基本理念

1. 事業名称：秋田市建都400年記念事業
2. 期 間：平成16年4月～平成17年3月  
(平成15年度はプレ年度)
3. 実施主体：秋田市建都400年記念事業実行委員会
4. 共催支援：秋田市、秋田商工会議所、秋田市文化団体連盟、  
秋田青年会議所、その他
5. 総事業費：平成15年度 50,026千円  
平成16年度 未定
6. 実施会場：秋田市内一円（一部県外でも実施）

### 歴 史 を 想 い

建都400年の歴史と先人の弛まぬ努力を回顧し、学び、そして誇りとす  
るための各種企画を推進・支援します。

### 今 日 を 祝 い

建都400年を経て築き上げた今日の秋田を、市民の大切な財産として認  
識するとともに、これをともに喜び、祝うための各種企画を推進・支援します。

### 未 来 へ 遺 す

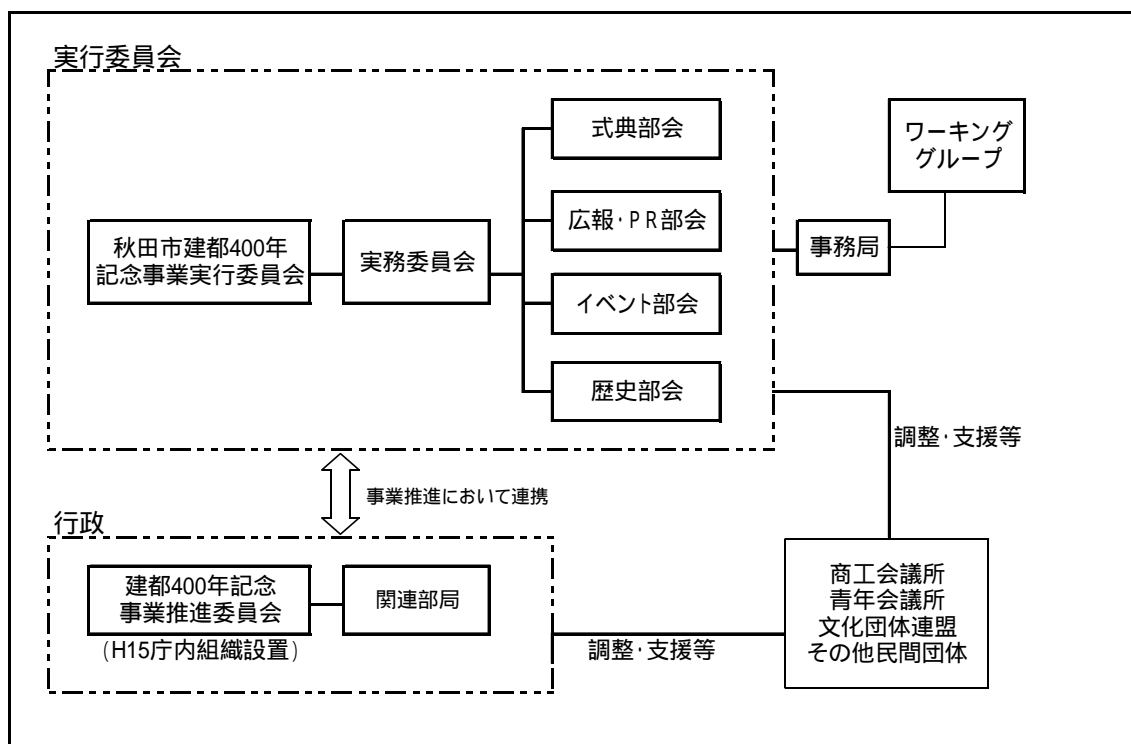
建都400年の歴史を踏まえつつ、未来へ向けて100年のまちづくりの礎  
となる取り組みを、市民とともに考え、実行していくための各種企画を推進・  
支援します。

## ．組織・推進体制

事業推進にあたっては、各界各層の市民代表等からなる実行委員会を最上位意思決定機関とし、その下部組織として、事業内容等の詳細な検討を行う実務委員会および各分野の運営に対応した部会を設置し、主催事業の実施等に向けた体制整備を図る。また、企画案の具体的なプランニングを手がけるワーキンググループと協力・連携を図る。

秋田市では、庁内に事業推進委員会を設置し、建都400年を契機に行政が取り組むべき内容について検討・調整を行うほか、実行委員会や各種団体等との連絡体制の構築を図るほか、民間主体の取り組みに対する支援等を行う。

組織図



## ・ロゴマークとキャッチコピー

秋田市建都400年記念事業を象徴するロゴマークとキャッチコピーは、記念事業を広く国内外にPRするとともに、市民が親しみと愛着を持って参加することを目指し、決定したものである。ポスターやリーフレット等へ積極的に活用していくほか、関連事業への冠として積極的な活用を推進する。

### ロゴマーク



漢数字を使うことで、歴史ある秋田の風格を感じさせるマークにした。一方で、一大イベントであることを考えて、色合いや様々なフォントスタイルにより、明るく元気な印象を心掛けた。また、「百」の字を通過する時の流れをも表している。

### キャッチコピー

日本にあきた *La·Akita*

400年の歴史という大局的見地から、今一度「あきた」を再発見することにより、その存在感をアピールしていこうとするものである。「日本にあきたあり！」という本来の趣旨に「日本に飽きたら秋田においで！」といった「洒落」も織り交ぜながら、秋田の魅力を引き出すとともに、市民の意識を高めていこうという強いメッセージが込められている。また、秋田市の明るい未来と新たな時代の出発をイメージするため、心地よい表音の「La」というフランス語を市名に冠し、斬新さを打ち出した。

# 平成15年度事業計画（案）概要

## 基本的方針

建都400年という歴史的節目に対する市民意識の高揚をはかるとともに、16年の記念事業本番への関心を高めていくという視点から、実行委員会を中心としてさまざまな実施主体による取り組みや事業について、通年にわたり実施・支援します。

## 年間予定スケジュール

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
会議	実行委員会		総会				第2回			第3回			第4回	
	実務委員会		第1回			第2回			第3回			第4回		
	各部会	16年事業について検討 まとめ					事業実施に向けた準備等							
	実行委員会イベント					音楽祭等			歴史シンポ					
事業	民間等主催イベント	能公演	歩け歩け大会		オペレッタ			郷土オペラ等	NHK公開番組					
	市主催イベント							男女共生フォ						
	イベントカレンダー	採用案決定	制作	販売開始～										
	漫画制作	原作者決定	シナリオ着手	製作開始～										原稿版完成
	PR活動	(通年)												

# 1. 実行委員会主催プレイベント（案）

平成16年度の本番へ向けた市民意識の高揚と記念事業への布石という視点から、以下の「プレイベント」を実施する。

## （仮称）秋田市建都400年記念 市民音楽祭

主 催：秋田市建都400年記念事業市民音楽祭実行委員会

期 日：平成15年8月2日（土）午後6：30～

場 所：秋田県民会館

入場料：1,000円～1,500円程度

（建都400年記念事業運営費に対する賛助金として位置づける）

構 成：第1部 秋田少年少女合唱団

第2部 秋田市管弦楽団

第3部 ウィーンオペレッタ管弦楽団

第4部 秋田市管弦楽団とウィーンオペレッタ管弦楽団による共演

## （仮称）秋田市建都400年記念 まちづくり歴史シンポジウム

主 催：秋田市建都400年記念事業実行委員会

期 日：平成15年11月

場 所：秋田市文化会館（予定）

入場料：無料

事業案： 佐竹氏秋田入部から久保田城入城、先進的町割りなど本市まちづくりのルーツを主題とし、その足跡を辿る。講演者やパネリストは、東京や常陸太田市などからも有識者を招へいし、それぞれの視点から本市の成り立ちを検証する。



## 2. 「イベントカレンダー」制作（案）

記念事業の一環として、県内の全市町村で行われる祭り・イベントを盛り込んだカレンダー（平成16年度版）を制作・販売し、県外からの観光客等、秋田県全域への誘客促進や広域的なPR展開を行うこととする。その制作にあたっては、専門企業が有する企画力や技術などに基づく優れた提案を求めるとし、審査は、デザイン専門家等で構成される選考委員会を設置して行う。

選考委員会では、提案内容を総合的（デザイン・見やすさ・価格等）に検討して優れた提案を選考し、入選案を決定する。

### 1. 制作基本コンセプト

記念事業を広く周知し、誘客を促進するような見やすいもの。

ロゴマークやキャッチコピー等を効果的に配置し、記念事業を印象づけるもの。

イラストや写真等を効果的に用いるなど、「一年中盛り上がる秋田市(県)」を印象づけるもの

### 2. 審査委員会構成

デザイン性や集客促進、販売の観点から審査するため、下記の7名で構成する。

- ・秋田市建都400年記念事業実行委員会 委員長
- ・同 総合プロデューサー
- ・秋田公立美術工芸短期大学産業デザイン学科教授等 2名
- ・秋田県観光課観光情報発信チーム職員 1名
- ・観光協会関係者 1名
- ・その他 1名

### 3. スケジュール

4月2日（水）企画書提出締め切り 17:00まで

4月中旬 企画提案競技選考委員会開催 業者決定・作成開始

7月中旬 成果品納入

8月1日～ カレンダー販売開始

### 4. 部数 10,000部（必要に応じて増刷する）

### 3 . 「漫画で綴る秋田市の歴史」制作（案）

400年のときを経て、今ここにある秋田市の「まち」の姿、そしてこのまちに暮らす私たち。先進的な町割りをはじめ、産業・交通基盤の整備などまちづくりのルーツを辿りながら、これからの秋田市のまちづくりについて考えるきっかけとなる出版物を作成する。

#### 1 . 内 容

建都400年の歴史の中に、築城に伴う旭川の改修や外町・内町の町割りをはじめ、竿燈まつりの由来、秋田蘭画の成り立ち、戊辰戦争や奥羽列藩同盟等の藩政終焉に至るまでのエピソード等を描きながら、まちづくりを検証していく。しかしながら、淡々と歴史を描くのではなく、義宣公や義和公といった名君やその時代に暮らす人々の人物描写を採り入れることで、子供から大人まで学べて楽しめる作品とする。

#### 2 . 制作スキーム

漫画執筆：倉田よしみ氏

シナリオ：秋田魁新聞連載中の「佐竹入部400年・時の旅」等から素材を収集しながら、専門家にシナリオ（原作）を依頼する。

監 修：時代考証等、歴史的観点から内容を検証するため、専門の有識者へ依頼する。

発 行 元：秋田市建都400年記念事業実行委員会

#### 3 . 発行時期

平成16年5月末（予定）

#### 4 . 仕様

単行本（コミック本サイズ）約200頁、一部カラー

#### 5 . 販売形態

2,000部を実行委員会で買い上げ、図書館や教育機関等へ配付するほか一般販売も行う予定。

## 4 . プロモーション計画の推進（案）

平成16年度を中心とした秋田市建都400年記念事業の実施に向け、その事業概要等についてさまざまな媒体を用いたプロモーション展開を図る。

### 1 . P R ビデオの制作

秋田市および建都400年記念事業を幅広く紹介するため、P R ビデオ（20分～30分）を制作する。

藩政時代から今日に至る秋田市の歴史をダイジェストで紹介するとともに、記念事業の概要について盛り込む。ビデオは、各種催事場やJ R 駅構内、空港等における放映を依頼するなど、県外客も対象とした効果的かつ積極的なP R を行い、16年度に向けた市民意識の高揚とさらなる誘客を図る。

### 2 . テレビ・メディアの活用

テレビ、ラジオ、地元新聞紙、全国紙、タウン紙などを活用して記念事業の周知を図る。

(1) テレビCM イベント開催時などにスポットCMを放映する。

(2) 新聞広告 イベント開催時や市の記念日等に併せて記事を掲載する。

その他、マスコミ関係機関への特集記事の掲載や特別番組の放送等について協力を求める。

### 3 . 出版物の活用

記念事業に対する市民意識の高揚を図るため、事業P R のための各種出版物を制作する。成果品は、市関連施設や各公共交通機関、商業店舗、宿泊施設等に配付するとともに、積極的な掲示を働きかける。

（主な出版物）

・リーフレット（5,000部）

・ステッカー（2,000枚）

・ポスター（3,000枚）

ポスターについてはデザイン競技により決定する。

### 4 . 広報あきたの活用

「広報あきた」で記念事業を定期的・系統的に紹介する。